

【今年度の結果と取組みについて】

○●国語●○

(領域ごと)

- | | |
|-------------------|-------------|
| ① 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 大変良好な結果であった |
| ② 情報の扱い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ③ 我が国の言語文化に関する事項 | 良好な結果であった |
| ④ 話すこと・聞くこと | 良好な結果であった |
| ③書くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④読むこと | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 良好な結果であった |
| ② 短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

最も正答率の高かった問題は3―2「事象や行為、心情を表す語句について理解する」。次に正答率が高かった問題は4―3「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する」であった。

最も正答率の低かった問題は「自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして書く」であった。

分析

無回答率は年々減少傾向にあり、授業で粘り強く指導をしている結果、あきらめずに取り組む力がついてきていると考えられる。また「情報の扱い方」で「書くこと」の領域で概ね良好な結果であったが、誤答の内容が文章の引用の際、「」をつけていないということによるものが大半であった。引用の際「」をつけなければならないことを丁寧に何度も指導していくことで、この領域は改善されることが考えられる。

領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ① 数と式 | 大変良好な結果であった |
| ② 図形 | 大変良好な結果であった |
| ③ 関数 | 良好な結果であった |
| ④ データの活用 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 良好な結果であった |
| ② 短答式 | 良好な結果であった |
| ③ 記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

最も正答率が高かったのは問題番号5「容器のふたを投げたときに下向きになる確率を求める」問であった。

一方、最も正答率が低かったのは問題番号9(2)「 $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する」問であった。

分析

・無回答率は平成 22 年を境に年々減少傾向にあったが、平成 31 年を境に令和 3 年、令和 4 年とまた増加傾向にある。

・簡単な連立二元一次方程式を解く問題では、正答率も高く無回答率が全国に比べて大変低い結果となっている。また、この問題は代入法を用いた開放が一般的な問題であり、係数を合わせる必要もない問題のため、代入後の式の形も予想しやすかったと考えられる。

・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているかを問う問題では、正答率・無回答率ともに全国平均を上回っている。

・筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問題では、全国平均と同じく正答率・無回答率共にとても低い結果となっている。また、本校でもここ数年論理立てて物事を説明する力がついておらず低い結果が続いている。そのため、図形の問題のみならず様々な単元において、理由を説明し文章で表現をする問題を多く行っていくことが重要となる。

○●理科●○

(領域ごと)

- | | |
|--------|-----------|
| ①エネルギー | 良好な結果であった |
| ②粒子 | 良好な結果であった |
| ③生命 | 良好な結果であった |
| ④地球 | 良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問は3-(1)「分子モデルで表す」、次に高かった設問は1-(2)「タッチパネルによる比較実験」であった。
- ・もっとも正答率の低かった設問は5-(1)「重力につり合う力」を説明できるか。また文章を読んで解答を選択する問題で、正答率が低い傾向にあった。

分析

本校生徒の正答率は各設問において、大阪府・全国の正答率を上回っており、良好な結果であった。

無回答率は「エネルギー」「粒子」の領域において大阪府・全国を若干上回っていた。それ以外は、おおむね大阪府・全国の無回答率を下回っていた。また選択式・短答式より記述式の問題になると、無回答率が上がる傾向が大阪府・全国の無回答率と同じであった。

・実験行いを身近な科学現象につなげる問題で、正答率が低い結果となった。入学して以降実験に制限がかかっていた学年なので、実際に実験を行う経験が乏しかったのは事実だが、実験で行った現象から身近な科学につなげることが、理科においては重要なポイントであると考えられる。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

平均正答率は、全国平均を上回る良好な結果だった。無解答率も前回同様に全国比で良好な結果が続いている。見通しを持たせた授業づくり、振り返りや反復練習を行い粘り強く書くことに取り組んできた成果だと考えられる。一方で、複数の情報を正しく読み取り、記述することに課題がある。また他者の意見を取り込み整理し、自分の言葉として言語化するときはどう表現させるのか、工夫が必要である。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

前回と比較し、学力高位層及び、低位層はほぼ横ばいだったが国語では低位層の減少が続き、数学では高位層の増加が見られる。これまで取り組んできた養精中型「共動学習」の成果が出ているので、今後も取り組みを継続・発展させ、安心して学びを深められる「学習集団づくり」を基盤として進めていきたい。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

【国語】

◎表現の仕方について捉え、自分の考えを表現する授業

■文章を読み、その内容や、比喩表現や情景描写などの表現の仕方についてグループやタブレットを用いて交流することで自分の考えを深め、表現できるように指導していく。

◎自分の考えを分かりやすく伝えるために適切な語句を選んで書く・話す授業

■日常生活の中の話題などについて、グループや学級で対話や討論を行い、書く・話すための材料や情報を適切に集め、目的に応じて誤解のないように伝える表現の工夫ができるように指導していきたい。また、各教室にある辞書や個人のタブレットを活用し、語彙を増やすように促し、複数の条件を満たして書くことや主語を明確にして書くことができるように指導していく。

◎思考力を深める授業

■タブレット等を用いて、自分の考えを共有する。また他者の考えに触れていくことにより、自分の考えの整理、他者の考えに触れ、深い学びに接続できるように指導していく。

【数学】

◎演習問題を解いていくだけでなく、教えあい学びあいを通して、相手に伝えるための言語・表現の工夫など、言語活動を意識した授業

■数式や論理を理解するだけでなく、相手が理解でき伝わるよう表現方法を工夫させる。必要とあれば皆の前に立ち、プレゼンテーションを行う機会を作り、考えを言語化させる。

◎3年間通して同じ形式のプリントを使い、演習問題に集中して取り組める授業

■全学年3年間を通して同じ形式のプリントを使用しているので、どの生徒も段差なく取り組める。また、演習問題を事前書き込んでいることにより、板書の時間を減らし集中して問題に取り組め、解けた生徒からまだ解けていない生徒への教えあいをする時間を意識して作っている。

☆「つながり合い、学びを深め合う学習集団づくり」を目標に、相互授業参観や教科会議で教材や発問、授業方法や内容の研究、するとともに、ICT機器や板書・タブレットなどを活用した授業づくり、視覚支援、ユニバーサルデザインの視点、思考ツールを取り入れた授業改善を各機関と連携し促進していく。